

事業名称	オンラインを中心としてつなげる古代オリエント文明・元気プロジェクト		
実行委員会	古代オリエントをたのしむ実行委員会		
中核館	公益財団法人 古代オリエント博物館		
	住所	〒170-8630 東京都豊島区東池袋 3-1-4 古代オリエント博物館	
	TEL	03-3989-3494	FAX 03-3560-3266
	ホームページ	https://aom-tokyo.com	
構成団体	株式会社サンシャインシティ、岡山市立オリエント美術館、高梁市成羽美術館、横浜ユーラシア文化館		
事業開始時点の課題分析	中核館は誰でも楽しめるユニバーサルな博物館を目指して、これまで社会人、子供、非日本語話者を含むあらゆる年齢層、そして多様な関心をもった来館者に向けて事業を実施してきた。しかし、身体障害者に関してはアクセシビリティを大きく向上させることが出来ていなかった。また、COVID-19の感染拡大によって、利用者が博物館に行くことができない状況が続く中、感染予防対策を講じた博物館のコンテンツや体験を享受できる新たな事業を展開する必要があるがあった。		
事業目的	本事業では、 <u>社会に生きるすべての人々に古代オリエントを学ぶ楽しさや、人類の文化遺産について深く考える機会を提供し、地域と連携しながら多様な文化遺産を次世代につなげていくこと</u> の重要性を社会全体にアピールすることを目的とした。		
事業概要	本事業では、1 障害者を含めたあらゆる人々への博物館体験と、2 地域の児童・生徒の体験学習の再考に焦点を当てて事業を実施した。		
実施項目 ・ 実施体系	<p>1. 「古代オリエントをたのしむ」ユニバーサルデザイン事業</p> <p>(1) 在留外国人・海外在住ユーザーへの館内およびオンラインサービスの充実、(2) 視覚障害者に向けた展示案内の充実、(3) 触って学ぶハンズオン展示の導入</p> <p>2. 「古代オリエントをたのしむ」体験型学習事業</p> <p>(1) 豊島区小中学生向けの広報印刷物制作・送付、(2) ワークブック、ワークシート、資料カード制作、(3) 学習教材キット制作とそれを活用したアウトリーチ活動、(4) ワークショップ開催：オンラインワークショップ、子供のオリ博体験教室、豊島区および地方でのワークショップ</p>		
実施後の成果・効果等	<p>上記の実施項目1では、多言語による情報発信、視覚障害者を対象とした展示解説ツアーや、触れる展示を集めた展覧会の開催などを行い、多様な来館者層に向けた博物館体験を提供した。視覚障害者を対象とした展示解説ツアーでは、参加者から高い評価を得ることができ、今後の継続を期待する声が寄せられた。</p> <p>実施項目2では、COVID-19感染予防を考慮して、持ち帰りできる学習教材やワークシートの配布、オンデマンドワークショップの開催に力を入れた。また、豊島区小中学生向けに招待チラシの配布、豊島区立郷土資料館や豊島区立中央図書館、豊島区文化デザイン課と共働した事業を展開したりすることで、豊島区との連携を一層深めることができた。この結果、豊島区の児童が継続的に来館するなど、地域における小・中学生の博物館利用が促進された。次世代へ向けた鑑賞・学習体験を提供する中核館の活動が、地域に浸透していることを実感できた。</p>		

【事業実績】

1. 「古代オリエントをたのしむ」生涯学習事業

(1) 在留外国人・海外在住ユーザーへの館内およびオンラインサービスの充実

英語、中国語、韓国語による展覧会や関連イベントの情報発信を行い、日本語非母語話者に向けた利用を促した。

(2) 視覚障害者に向けた展示案内の充実

豊島区盲人福祉協会、視覚特別支援学校教諭の協力のもと、レプリカや実物を触る、視覚障害者を対象とした展示解説ツアーを開催した(2022/5/8(日)参加者5名、介助者2名)。博物館を利用することがなかなかないという参加者から、「楽しかった」「歴史のことをもっと知りたい」「今後もぜひ続けてほしい」などの意見や感想を直接聞き取ることができた。いずれの参加者からも定期的な実施を求める意見が寄せられており、今後継続的に事業が展開できるよう、スタッフ育成、触る資料の充実に取り組んでいく。



視覚障害者を対象とした展示解説ツアーの様子

(3) 触って学ぶハンズオン展示の導入

展示資料のレプリカや実物資料を触ったり、古代のコイン作りや土器復元体験などができるハンズオンの展覧会を開催した。点字キャプションや資料の図像がわかる触図なども本展で取り入れた。来場者は2,071名で、子供から大人まで幅広い世代に来館いただいた。また、COVID-19感染予防対策のため、ハンズオン展示に用いたレプリカは光触媒コーティングを施し、利用者が安心安全に触ることができるように環境を整えた。

2. 「古代オリエントをたのしむ」体験型学習事業

(1) 豊島区小中学生向けの広報印刷物制作・送付

豊島区内の小学校、中学校の児童・生徒全員に夏の特別展「特別招待(入館料無料)」チラシを配布した(公立、私立あわせて41校)。豊島区教育委員会や校長会と連携し、各学校長、教員を通して児童への通知を徹底した。本チラシに加え、後述の(4)②豊島区立郷土資料館連携事業と(4)③展示鑑賞を促すワークシートの作成・配布により、10回来館を達成する児童もあらわれるなど、小中学生の継続的博物館利用の定着に成功した。



豊島区小中学生招待チラシ

(2) ワークブック、ワークシート、資料カード制作

古代オリエントの地理や遺跡を学ぶことができる遺跡スタンプとオリエントの地図がプリントされた手ぬぐいを制作した。スタンプは、令和2年度に制作した子供向けワークブックにも押印できる形態にした(全6種)。スタンプと手ぬぐいは、今後の子供向けギャラリーツアーに活用していく。また秋の特別展「女神繚乱」期間中、展示資料に関するカードを集めてオリジナルのワークブックを制作するイベント(2021年秋)を開催した。カードは大人の来館者に好評で、174名の方に2回以上来館いただいた。

(3) 学習教材キット制作とそれを活用したアウトリーチ活動

今年度の事業ではアウトリーチ活動はほとんど実施ができなかったが、研究者や学校関係者と協議し、展示品資料の3Dレプリカなど貸し出しできる教材の充実を試みた。また、制作教材の一つである古代オリエント博物館所蔵のプセムテクのウシェブティ3Dレプリカは、(4)地方ワークショップで活用した。レプリカを制作したことで、館外実施のプログラムにおいても、資料の細かな造形を観察する活動が可能となった。

(4) ワークショップ開催

①子供のオリ博体験講座

COVID-19 感染者数が減少傾向にあった 2022 年 1 月～5 月に、感染予防対策を十分講じた上で対面による子供向けワークショップ「子供のオリ博体験講座」を開催した。終了後のアンケートでは「対面開催を心待ちにしていた」「オンラインで初めて（中核館のワークショップに）参加して興味を持った」など、⑤オンデマンドワークショップの地道な取り組みが、次世代の博物館ユーザーの獲得・拡充という成果につながっていることが分かった。



↑ 2022/01/09開催「古代オリエントのくらしのひみつ」実施風景

②豊島区内社会教育施設連携

豊島区立郷土資料館と連携し、夏の特別展期間中に 2 館を回遊するスタンプラリーと、相互パネル展示、ワークショップを実施した。スタンプラリー台紙 2(2)は 2(1)と一緒に豊島区の小中学生全員に配布した。さらに児童・生徒が楽しみながら 2 館を回遊できるよう台紙、ミュージアムノート（令和 2 年度制作）が入るサコッシュバックを制作した（回遊キット）。



↑ 回遊キットを使用する児童

スタンプラリーは中核館からは 146 名の達成者が出た。このうち豊島区民の参加は 4 割を占めた。達成者アンケートでは、通学している学校として椎名町小学校（豊島区西側）、西巢鴨小学校（豊島区北側）などが挙がっており、豊島区全域から参加いただいたイベントとなった。そのほか、豊島区立中央図書館や豊島区役所内の庁舎丸ごとミュージアムと連携し、中核館の展覧会を特集する展示コーナーを各施設で設けてもらうなど、地域住民への周知を一層高めることができた。

③子供向けギャラリーツアー

本項目は展示室の 3 密を避けるため対面開催は行わず、各々で展示室を回遊できる展示資料観察クイズワークシートを作成し、配布した（2021 年夏、2022 年 4-5 月）。クイズワークシートの内容は毎週更新するため、新しいクイズに挑戦するため地域の子供の継続的来館が見られるようになった。



↑ 展示品をよく観察して答えるクイズワークシートの一例

④地方ワークショップ

高梁市成羽美術館にて古代エジプトのシャブティ（ウシェブティ）制作のワークショップを実施した。中核館の古代エジプト専門知識やワークショップ企画のノウハウを共有することで、地方ミュージアムが古代エジプトに関するワークショップを自立して開催できるようサポートした。

⑤オンデマンドワークショップ

オンラインを活用して、子供を対象とした古代オリエントの文化を学ぶワークショップを開催した（計 3 回実施）。北海道から九州まで、日本全国から参加申し込みがあり、実地開催では限定的であった学びの機会を、地域という垣根を超えて広く提供することができた。

⑥体験キットを活用したオリジナルワークショップ

古代エジプトの神殿儀礼キットを活用したワークショップを開催した。当初対面開催の予定だったが、COVID-19 感染拡大に伴いオンライン開催へと変更した。古代エジプトの神殿儀礼を学ぶプログラムの実施は世界でも実施例がほぼない。今後対面での開催も重ねることでプログラムの質を上げ、日本における古代エジプトワークショップのロールモデルとして構築していきたい。

⑦学校連携ワークショップ

豊島区立西巢鴨中学校（特別支援学級）と連携し、古代エジプトのウシェブティを作る授業を中核館で実施した。（3）で開発した教材を活用した学校連携ワークショップについては、次年度以降の運用と実践を目指す。